

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375601446
法人名	有限会社 森津介護サービス
事業所名	グループホーム 森津
訪問調査日	平成 20 年 12 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375601446		
法人名	有限会社 森津介護サービス		
事業所名	グループホーム 森津		
所在地	〒498-0036 愛知県弥富市森津 9丁目 14-4 (電話) 0567-65-8050		
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地N203号室		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成20年12月23日

【情報提供票より】(20年11月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤18人、非常勤 2人、常勤換算	12.46人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	一日あたり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まごころ在宅医療クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、近鉄弥富駅から車で5分ほどの田園風景の自然の中にある。開設5年目のホームは、広大な敷地に建つ、ゆったりとした平家建ての建物が特徴的である。その広い庭は芝生広場になっており、至るところに四季折々の花々や樹木が植えられており、利用者の散歩道やホーム行事(秋の芋ほりやバーベキュー大会等)開催スペースにも利用されている。ホームの理念は、運営者がホームを立ち上げた原点である「人間が、人として尊重されて、最後まで自分らしく幸せに暮らせること」である。この指針を忘れないように、管理者・職員が共に日々の介護支援に努力している。医療面でも認知症専門医の毎月の訪問や提携医の月2回の往診、看護師の配備など充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回課題(1)運営推進会議の充実・・・会議は開催されているが、2か月に1回の実施には至っていない。引き続き、定例化するよう体制整備を検討中である。前回課題(2)重度化等への対応・・・重度化対応及び看取りを職員全員で体験したので、その経験を制度化・文書化するなど取り組み中である。前回課題(3)災害対策・・・課題の多くは解決した。残された課題は地域住民との協力体制の構築である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は、項目を分担して職員全員で記入したものを各ユニットの管理者がまとめあげた。職員は、評価結果をもとに、気づきや改善すべきところを理解することができた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、今年度1月と3月に開催している。会議の内容は、活動内容の報告・予定、避難訓練の実施について、利用者の状況、スタッフの異動などである。出席者は市職員、地域包括センター職員、弥富社協職員、民生委員、区長、利用者家族代表、ホーム管理者等である。現在、会議の定期的な開催定着のために、①毎回の会議での報告事項の決定、②出席可能な地域代表者の選定、③開催日時の年間スケジュール化など、を検討している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「家族アンケート」においては、家族の多くから満足度の高い評価を得ている。例えば、職員が全員親切で、明るく、とてもよくしてくれる。バイタルチェックや健康管理が行き届いている。訪問しやすいなどである。定期的な便りが欲しいと言う要望に対しては、今後、月1回「森津だより」を発行をするという前向きな回答を得た。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年、秋に開催する「バーベキュー大会」には、地域の人や利用者、家族などが出席し職員との交流の機会としている。地域のボランティア、幼稚園、小学生、高校生、福祉施設の生徒との交流も積極的に行っている。町内会の行事には、清掃や祭りなどに参加している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は、「自分らしく、いつまでも…」、「家族の一員として、家庭的で温かく、優しいケアの実践」、「一人ひとりを尊重し、自立のための支援をする」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示している。職員は、ユニット会議などで、理念を話し合い、共有し、日々のケアの向上に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。町内清掃は、早朝のため、職員が参加している。地域の行事(小学校の運動会、秋祭り、みこしなど)には、利用者と職員が参加している。地域のボランティア(フラダンス、ギター・ハーモニカ演奏など)や幼稚園・高校生の訪問など、地域との交流を多く持っている。また、地域の人より、オムツ、下着、野菜などを貰うこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は、職員全員が100項目を分けて記入し、管理者とリーダーがまとめた。職員は、自己評価を記入することにより、気づきや改善点が見つかり、自分の仕事を見直す機会になった。	○	自己評価には、職員全員が参加しており、意義も理解している。然し、今回は各職員が項目を決め、分担して対応している。できれば、各職員が全部の項目に目を通し記入し、これまで以上にグループホームを理解し、ケアの質の向上に取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、2回(1月、3月)開催された。毎月の行事が多いため、会議の回数を規定通り行うことができなかった。会議の内容は、活動報告・予定、スタッフ紹介、ホームの利用者状況、避難訓練についてなどである。出席者は市職員、地域包括センター職員、弥富社協職員、民生委員、区長、利用者家族代表、ホーム管理者等である。	○	定期的に運営推進会議を開催して、利用者・家族や地域の人たちの要望を聞くことにより、ケアの向上に活かすように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	弥富市の調整連絡協議会(月1回)に出席している。市高齢者福祉課、社会福祉協議会、地域包括支援センター、市内の介護サービス事業者と交流し、情報などを得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に、日頃の様子や出来事、健康状態などを伝えている。遠方で来れない家族へは、月1回電話や「森津だより」(年2回)などで報告している。	○	面会に来れない人や地域の人にも、ホームや利用者の様子を理解してもらうために、行事でやっていることや職員の紹介など、ホームの側から情報発信として、「森津だより」を月1回発行したいという考えもあり、今後の取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」が設置されており、記入するための用紙と筆記具を置いている。家族会もあり、バーベキュー大会や餅つきなどのイベントを作り、できるかぎりホームに対して意見を言いやすい環境を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット職員は原則固定化しており、異動は最小限にしている。利用者とは他ユニットの職員との交流は、散歩やレクリエーション、ウッドデッキでの食事やお茶会など多くの機会があり、馴染みの関係がある。このような取り組みを通じながら、急な退職や異動が生じてもダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、採用時の研修を行っている。勉強会は、以前は行っていたが、現在は実施していない。外部研修としては、「認知症」の講演会に、職員は交代で参加している。	○	内部・外部研修の計画を立て、職員がより上位の資格を取得する機会を作り、ケアの質の向上に役立てることに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症高齢者グループ協会に加入している。また、毎月開催される市の調整連絡協議会で、同業者との交流・情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に、利用者の自宅や病院へ、管理者やリーダーが訪問を行っている。体験入所(1週間)もでき、できる限り、馴染みの関係を作りながらの入居につなげたいが、急なサービスを開始する利用者が多いのが実情である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗たく物をたたんだり、花の水やりなど、利用者と職員は、日常を共に過ごしている。野菜の作り方、衣服の繕い方など、職員は、利用者から教わることが多くあり、年長者として尊敬し、仕事のやりがいを持って支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、日々の生活から把握し、記録に残して、職員全員が情報を共有している。言葉で伝えることができない人には、表情や素振り、日常の様子から把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れて、医師の意見と職員全員で話し合い、介護記録、業務日誌、申し送りノートなどを基に、ケアマネージャーが、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は、短期・長期の見直しを行っている。月1回の担当者会議で、介護計画が現状に合っているかを、職員全員で見直しを行い、家族に報告し対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの提携医・看護師と24時間 電話連絡が可能である。通院は、通常 家族が行うが、家族ができないときには、職員が通院介助を行っている。著名な認知症専門医の訪問診療(月1回)を実施しており、職員や家族も「認知症介護」の対応を学ぶ機会がある。訪問理美容の支援をしたり、果樹園・畑を地域の人に開放している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する病院で受診できるよう、家族・職員が通院支援をしている。ホーム入居後は、ほとんどの利用者が、ホームの提携医に変更している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、契約時に、ホームの方針・指針を説明して、記録を残している。介護度が高い人についても、可能な限り受け入れているため、重度化しても介護を行っている。最近、こうした人で食事が取れなくなり病院へ入院し、翌日の夜明けに亡くなった人があった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルなどの情報書類は、事務所で管理している。職員全員の管理、徹底もできている。言葉かけは、本人の気持ちや自尊心を傷つけないように、職員全員が気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズム、体調、気分にあわせた支援を行っている。天気や気候の良いときには、散歩やウッドデッキ、芝生へ車イスで出て、日なたぼっこや、外気に触れるサポートをしている。新聞を読んだり、花に水をやったり、草とりなど 利用者が、その人らしく生活できるように、職員は見守り、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、管理栄養士によるメニューを業者から仕入れて、職員が調理している。ホームの野菜などが採れた時は、食材に使っている。野菜の皮むきや、テーブルを拭いたり、下膳など 利用者の能力と、その日の気分で行う人もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、1日おきであるが、自立できる人は、毎日入浴できる。利用者のペースでゆっくり入浴できるように、職員は、見守り、支援している。常時、入浴剤を使用しているが、季節の湯(ゆず湯、菖蒲湯など)で楽しんでもらう工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活のリズムを作るようにして、利用者と職員は、部屋のモップ掛けをしたり、毎朝のラジオ体操を行って、身体を動かす支援をしている。お茶を飲んだり、喫茶店へ行く人、歌を歌ったり、花や野菜を育てたり、水やり、草とりなどの役割を持つ人や、新聞を折ったりする人もいる。毎月のレクリエーションは、利用者の楽しみの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天気の良い日には、車イスで、部屋からウッドデッキや芝生に出て散歩をしている。喫茶店・回転すし・カツ丼などの外食もできるように支援も行っている。車イスを使う利用者が多いため、自動車による外出支援も頻繁に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の鍵かけは、しないことが基本である。利用者は、玄関や居室のはき出し窓から、外へ自由に出ることができる。そのために、外へ出て行ってしまう可能性のある人に限り、居室の窓側の鍵かけをすることもある。夜間は、防犯・安全のため、午後7時から翌朝9時まで施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回、消防署の指導で実施している。緊急連絡網についても作成している。備蓄品は、3日分の食料品、飲料水(常時36L)の他、テントなども用意している。地域との協力においては、周囲が田畑で、近隣と離れているため、すぐには、協力が得られない状況がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量、水分補給量、排泄状態などを、記録チェック表に個別に細かく記入して、毎日、職員全員がチェックをし共有している。冬の季節も、水分をこまめに摂ってもらうよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム敷地の広い芝生広場のほか、敷地に隣接して果樹園、野菜畑がある。玄関のアプローチには、鉢植えの花壇が作られて訪問しやすい工夫がされている。ウッドデッキにはくつろげるベンチが置かれている。リビングのテレビの前には、ソファが置かれ、利用者が雑談する様子が見られた。リビングの壁には、利用者の書いた習字や、レクリエーションの写真、季節のちぎり絵などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、エアコン、ベッド、カーテン、クローゼットが備えられている。利用者の使い慣れた物(テレビ、収納ケース、衣類、思い出の写真、手作りの作品、位牌など)を持ち込んでもらって、安心して生活できるようにしている。		